

# 子育てにおける俗信の扱われ方について

## — 大和郡山市公立幼稚園の保護者への意識調査から —

恒 岡 宗 司

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

### How to handle superstition in child care : Results of an attitude survey with a guardian of Yamatokoriyama City public kindergarten

Munechika Tsuneoka

*Naragakuen University Narabunka Women's College*

俗信の多くは、子ども時代だけでなく大人になってからも聞いたり話したりするなど、生活の中に入り込んでいる。また使われる場面も様々であり、使う意図も話の流れの中で例え話のようなニュアンスで使われるなど、決して話の主役を占めていないのが一般的である。すなわち俗信は、世代間の伝承を目的として言い伝えられてきたものではないというのが筆者の基本的な考えである。しかし、生き方の知恵として様々な思いや願いを込めて世代を超えて受け継がれてきたことも事実である。

本稿では子育てに関する俗信に焦点を当て、主に子育て世代の保護者が我が子に対してどのような意識で俗信を使っているのか、またそれらの俗信は自分が子どもの頃に親から聞かされてきたものであるのかとの関係についても、アンケート調査を実施して明らかにしたい。併せて、保育職を目指す学生世代では保護者世代と同様の傾向がみられるのかについても比較を試みたい。

キーワード：俗信、子育て、意識調査、民俗学

## 1. はじめに

科学技術の著しい進歩がみられる現代社会において、なお「俗信」や「迷信」、「言い伝え」と呼ばれる類のものが会話に登場することがある。特に俗信と迷信は厳密に区別できるものではなく、俗信の中に迷信も含まれるとされている。一般的に迷信と認識されるものは科学的根拠が乏しく不合理なもの、あるいは人権尊重の考えに立って不適切なものとして否定的にとらえられている場合が多い。それでもなぜ科学技術が高度に発展した現代社会において、俗信が世代を超えて言い伝えられているのだろうか。特に子育てを通して世代間で話し継がれている俗信が、どのような場面でどのように扱われているのだろうか。筆者は以上のような問題意識をもって、現在子育て中の幼稚園の保護者を対象にアンケート方

式による意識調査（以下、「アンケート調査」と表記する。）を実施し、その実態を報告する。併せて、保育士養成校である本学で学ぶ若い世代の学生が俗信を聞いたり話したりしたことがあるかどうかについても、保護者対象と同様の内容でアンケート調査を実施する。

アンケート調査では、子育てとの関連の深い俗信について辞典、一般図書を参考にしながら筆者自身の経験、身近な方からの聞き取り等を通して30項目を選定した。それらの内容は、どちらかといえば迷信と呼ばれる類のものが多く含まれる結果となった。なお、個々の俗信については、民俗学の分野の先行研究において一定の分類整理が行われてきたが、それらの由来や地域差、意味付けなどにおいて多様性がみられ、分類上からみた個々の俗信と迷信との学問的な境界に曖昧さが残る。筆者も俗信の中に迷信が包含されているという考え方をもっているが、本稿の研究目的に照らしてそれらの厳密な区分にはこだわっていない。この点については、多くの人々の日常生活の会話では俗信よりも迷信の言葉の方が一般的に使われており、俗信と迷信の違いを意識して使い分けている人はほとんどいないのではないかと推察する。ちなみに保護者へのアンケート調査の自由記述欄でも迷信の言葉を使って書かれていた。本稿では全体として俗信の言葉で表記を統一しているが、文脈上必要に応じて筆者の判断で迷信と表記した場合もある。

## 2. 研究の内容と方法

### 2.1 研究の内容

研究内容として、文献調査とアンケート調査を行う。

(1) 文献調査では、俗信と迷信の定義や区分等について民俗学の観点から先行研究を調査する。併せて、子育ての観点から俗信を収集又は分析した事例の有無についても調査する。

(2) アンケート調査では、保護者と学生別にそれぞれ結果を集計するが、主として子育て中の保護者が俗信をどのように認識し扱っているかの観点から分析を行う。

保護者対象のアンケート調査では、筆者が選択した30項目の俗信は表1のとおりである。なお、学生対象のアンケート調査も保護者と学生との結果を比較するため、30項目は同一のものとする。

今回の調査で筆者が選定した俗信30項目については、その由来に宗教的な慣行、民間信仰などの影響が及んでいる場合があることや、地域によっては因果を説く表現も異なっている場合もみられる。また、俗信を使って話す人の意図、相手や場面の違いにより少し変化した意味合いをもたせて使う場合もあれば、説明抜きで単に「昔からそう言われている」として子どもに話している場合もみられる。なお、筆者が参考にした図書『なぜ夜に爪を切ってはいけないのか』<sup>1)</sup>では、同書の執筆者の意図が「日本の迷信に隠された知恵」にあり、民俗学に立脚した分類にはこだわっていない。例えば「行いを戒め、真摯に生きる知恵、世の中を賢く生き抜くための知恵、縁起を担いで、厄を払うための知恵、行いで運を引き寄せる知恵、健康に役立つ食べ物の知恵」などに分類されている。また、動物・植物に関係する俗信を収集し整理したものに『日本俗信辞典 動・植物編』<sup>2)</sup>がみられる。

こうした分類の発想や方法も参考にしながら、筆者は「子育ての知恵」としての観点を設定し、子ど

もに対して使うことが想定される俗信を30項目選定した。また、今日でもよく聞かれる一般的な使われ方や内容を考慮して、筆者の判断で次のa群～c群に区分した。なお、後掲するグラフでもa群～c群の3群に区分して表示している。

a群) 社会生活を送る上でのマナーやしつけの意味合いで使われることが多いもの

[俗信の項目番号]・・・表1の1～12

b群) 縁起や験担ぎ、まじないとして使われることが多いもの

[俗信の項目番号]・・・表1の13～22

c群) 健康や安全に対する注意喚起として使われることが多いもの

[俗信の項目番号]・・・表1の23～30

回答に当たっては、次の二つの観点で回答してもらうこととした。一つは、自分自身が子どもの頃に聞いたことがあるもの、もう一つは、子どもに何かの機会に話したことがあるものである。また、場面エピソードについての自由記述として、次の質問を設定した。

「子どもに話をされた俗信のうち、もし話された場面やエピソードなどを覚えておられましたら、子どもたちの反応やその場の雰囲気や様子を想像することができますので、ご自由にお書きいただき教えてください。」

表1 保護者及び学生へのアンケート調査での俗信30項目

1	茶碗を叩くと餓鬼が集まる
2	ご飯に箸を立ててはいけない
3	ご飯をこぼす(残す)と目がつぶれる
4	食べてすぐ横になると牛になる
5	嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる
6	ミミズにおしっこをかけるとオチンチンが腫れる
7	枕を踏むと頭痛もちになる
8	夜に口笛を吹くと蛇が出る
9	子どもが火遊びをするとおねしょする
10	寝ている人をまたぐと、またがれた人は出世できない
11	貧乏ゆすりをすると出世できない
12	家の敷居や畳のへりを踏んではいけない
13	南天の箸で食べると病気をしない
14	茶柱が立つとよいことがある
15	靴を飛ばして裏返ったら雨になる
16	歯の生え替わりでは上の歯は縁の下に、下の歯は屋根に
17	人に噂されるとクシャミがでる
18	夜に爪を切ると親の死に目に会えない
19	北枕で寝てはいけない
20	手のひらに「人」を3回書いて飲むと落ち着く
21	蛇を指差すと指が腐る
22	夜に新しい靴をおろしてはいけない

23	冬至にかぼちゃを食べると風邪をひかない
24	端午の節句に菖蒲湯に入ると病気にかからない
25	てんぷらとスイカを一緒に食べてはいけない
26	ワカメやコンブを食べると髪の毛が増える
27	酢を飲むと体が柔らかくなる
28	スイカの種を飲み込むと盲腸になる
29	へそのゴマを取るとお腹が痛くなる
30	雷が鳴ったらへそを隠せ

### (3) 研究仮説

研究仮説としては、次の①～③を設定した。

- ① 保護者世代が自分の親世代から俗信を聞かされて記憶として残っていれば、我が子の子育てに使っている場合が多いのではないか。
- ② アンケート調査の結果を通して、子育ての中で俗信がどのように扱われているかについて、保護者の意識の傾向が明らかになるのではないか。
- ③ 保育職を目指している学生の俗信に対する聞いた経験や意識の実態を把握することにより、その傾向や保護者世代との違いが明らかになり、保育の場での扱い方を考えていくきっかけになるのではないか。

## 2. 2 研究の方法

### 2. 2. 1 文献調査

俗信についての情報は、前掲の『なぜ夜に爪を切ってはいけないのか』を参考図書とするほか、筆者のこれまでの経験や記憶、身近な方からの聞き取り、インターネット<sup>3)</sup>からの検索情報も活用した。また、俗信と迷信の表記や定義については、民俗学の観点から『民俗学辞典』<sup>4)</sup>、前掲の『日本俗信辞典』、辞書的な観点から『学研国語大辞典』<sup>5)</sup>の記述を参考にした。文献調査では筆者が子育ての観点から選択した俗信30項目をグループ分けするために、それらの由来や使われ方等を中心に調査した。

### 2. 2. 2 アンケート調査

幼稚園に子どもを通園させている保護者を対象に、大和郡山市内の100人規模の公立幼稚園3園（郡山南幼稚園・郡山北幼稚園・郡山西幼稚園）の保護者にアンケート調査を行い、集計結果の分析を行った。併せて、本学の学生（1回生～3回生）に対しても同様の調査を行った。調査時期はいずれも平成29年11月の1か月間を設定した。なお、保護者へアンケート調査を依頼するに当たっては、事前にアンケート調査の趣旨や内容、実施方法、調査の全責任が筆者にあることについて、市教育委員会学校教育課長、各園長に面会し、直接説明して了解を得た。具体的な調査の進め方は、次の(1)、(2)のとおりとした。

- (1) 現在でも会話の中で使われている俗信は、言葉の使い方として地域により多様性がみられること、同じ行為でも吉凶や禁忌などについては違った意味付けがされている場合があることから、調査項目の表現については、奈良県でよく聞かれる表現を中心に、なるべく広く知られた一般的な使われ

方で表記した。各項目については、「子どもの頃に聞いたことがあるもの」と「子どもに何かの機会に話したことがあるもの」の観点で回答を求めた。

- (2) 幼稚園3園の保護者及び本学学生へのアンケート調査の実施に当たっては、保護者に対して調査協力依頼文書の中に回答を提出することは強制でないこと、無記名方式であること、集計結果には幼稚園名や個人名は出さないこと、研究として一部自由記述の文章を引用する可能性があることについて明記し、了解を得ることとした。なお、保護者への調査協力依頼文書には、次のように趣旨説明を記載した。

「昔からの俗信は、現代社会ではそれらの多くが科学的根拠のないものとして理解されていますが、親から子へ、子から孫へと言い伝えられているものも散見されます。子育てでがんばっておられる保護者の皆様方の世代ではどのように言い伝えられているのかについての実態を調べて取りまとめたいと考えているのが、本アンケートの趣旨です。」

なお、学生へのアンケート調査では、前述のとおり俗信30項目は保護者対象のものと同じであるが、質問の観点は次のように変更した。一つは、「子どもの頃に聞いたことがあるもの」、もう一つは、「自分から友達等の身近にいる誰かに話したことがあるもの」とした。また、自由記述については、保護者とは異なる質問を設定した。質問内容は次のとおりである。

「これらの俗信のうち、保育の場で子どもたちに話してしまう可能性の高いものを三つまで選択し、それらの番号を書いてください。また、どんな場面で話すかもしれないと思ったのか、特に一つを選んでその理由を書いてください。」

### 2.2.3 アンケート調査の実施結果

保護者を対象としたアンケート調査は、幼稚園3園に対して平成29年11月1日付けで289家庭に依頼し、11月25日までの期間で回収した。回答者は227名であり、回答率は3園全体で78.6%であった。なお、全体集計は巻末に別表1として掲載している。

また、学生を対象としたアンケート調査は、平成29年11月8日から11月25日の期間に授業時間の一部を使って実施した。実施に当たっては、学生に趣旨、目的及びプライバシー保護の遵守を説明し、回答への協力を呼びかけた。なお、実施日に出席した学生が全員提出してくれたため、回答数は181名であり回答率は100%となった。全体集計は巻末に別表2として掲載している。

## 3. アンケート調査結果

俗信30項目に対する保護者及び学生のアンケート調査の集計結果全体については、別表1及び別表2のとおりであるが、ここでは次の(1)～(5)の視点から比較するため、図1～図5を作成し、保護者アンケートの調査結果は視点(1)～(3)で、学生アンケートの調査結果は(4)、(5)で分析を行った。

- (1) 「保護者が子どもの頃に聞いた経験・子どもに話した経験の割合」について
- (2) 「保護者が子どもの頃に聞いた経験と子どもに話した経験」について
- (3) 「子どもの頃に聞いた経験についての保護者と学生の割合比較」について
- (4) 「学生の保育の場で話す可能性」について
- (5) 「保護者の話した経験と学生の保育の場で話す可能性についての比較」について

なお、筆者が選択した俗信30項目の構成比率については、「a群）子どもに対して社会生活を送る上でのマナーやしつけの意味合いで使われる場合が多いもの」が40%、「b群）縁起や験担ぎ、まじないとして使われる場合が多いもの」が33%、「c群）健康や安全に対する注意喚起として使われる場合が多いもの」が27%となっている。筆者が子育てに関連する俗信を選定する際、使われる実際場面を想定したことから結果的にa群が多くなってしまった。そのため数値的な分析を行うに当たっては、この点に留意して考えていく必要がある。

### 3. 1 保護者アンケートの調査結果について

- (1) 「保護者が子どもの頃に聞いた経験・子どもに話した経験の割合」について

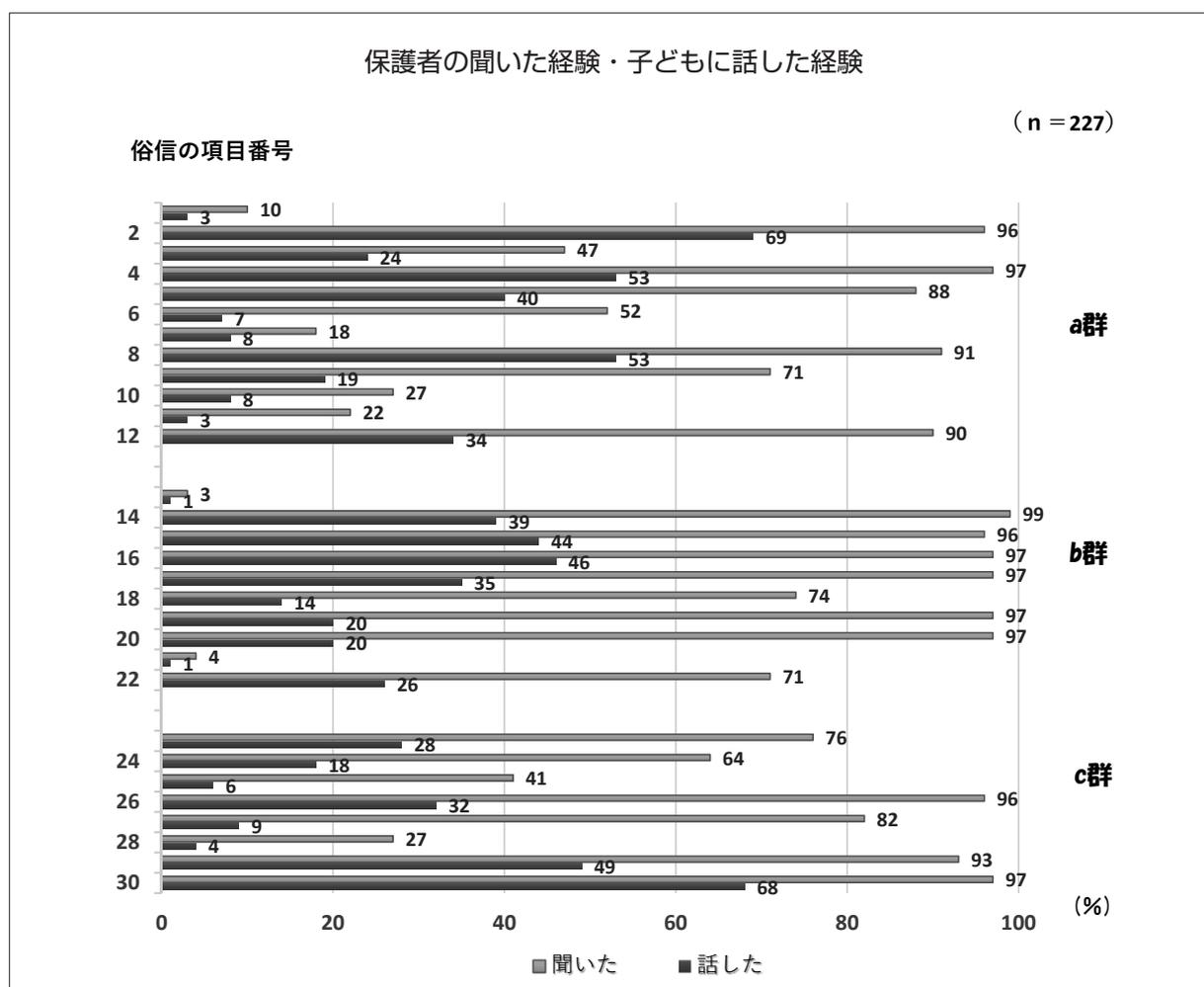


図1 保護者の聞いた経験・話した経験の割合

[保護者の聞いた経験に関して]

図1から、保護者が子どもの頃に聞いたことがある俗信では、30項目のうちの15項目（図中の各項目上段）が80%以上の人聞いた経験があると回答している。なかでも90%以上は13項目あり、全体の約43%に当たる。具体的には、次のような結果となった。

マナーに関わる禁忌的要素が含まれているa群では項目2、4、8、12

日々の幸せな生活に結び付くまじない要素が含まれているb群では項目14、15、16、17、19、20  
健康や安全に関わるものがみられるc群では項目26、29、30である。

保護者世代は年齢的に30代が中心であるが、この世代での俗信を聞いた経験の数値の高さは、いかにこれらの俗信が大人になった現在でも記憶に残っているかを物語っている。90%以上が聞いていますと回答した俗信の内容をみると、a群の「○○をすると□□になる」といった因果的な構図の中に、自分の身体に災いが生じるおそれがあるものが含まれており、もし子どもの頃に親から聞かされたら信じられなくても心中穏やかではいられない。また、まじない的内容のb群は、その時の自分の気分を高揚又はコントロールさせるなど、生活の中での心のもち方や精神的な安定につながると考えられることから、自然と記憶に残りやすい結果となったものと推察される。特に14の「茶柱が立つ」現象は99%の高い数値となり、回答者のほぼ全員が子どもの頃に聞いていることになる。

一方、40%未満の回答結果となったものは、全30項目のうちの7項目を占めており全体の23%に当たる。a群では項目1、7、10、11、b群では項目13、21、c群では項目28である。特に聞いた経験として10%以下となった項目1、13、21についてみると、「餓鬼」は仏教用語であり、「南天の箸」は認知度が低く、「蛇を指さす」行為はほとんどないことから、いずれ会話の中で使われなくなる可能性の高い俗信ではないだろうか。俗信全体としては、その時代の社会の風潮や環境、生活スタイル、人々の価値観の変化によって淘汰され、生活の中から忘れ去られていくものが数多くあると考えられる。

[保護者の話した経験に関して]

保護者の聞いた経験と我が子に話した経験との関係については後述するが、ここでは子どもに話した経験の割合の高さに着目して述べることにする。保護者が我が子に話す俗信は、当然自分自身が子どもの頃に聞かされてきたものであることから、前述した聞いた経験が90%以上の13項目（a群2、4、8、12、b群14、15、16、17、19、20、c群26、29、30）に着目した。これらのうち、話した経験の割合がほぼ半数以上のものを抽出すると、a群では項目2、4、8が該当し、b群ではなし、c群では項目29、30の計5項目であった。また聞いた経験の割合と比較すると、数値的にみて高いものでも68%又は69%であり、聞いた経験が90%以上であることに対して70%台に届いていない。これらの5項目は次のとおりである。a群2（ご飯に箸を立ててはいけない）、4（食べてすぐ横になると牛になる）、8（夜に口笛を吹くと蛇が出る）、c群29（へそのゴマを取るとお腹が痛くなる）、30（雷が鳴ったらへそを隠せ）

子どもの年齢が幼児期にあることを考慮していく必要があるが、図1から特徴的にいえることとして、一つには、b群には該当するものがない。子どもの発達段階と話す内容からみて、子育ての中ではあまり意味や価値を見いだしていないと思われる。b群の俗信に限れば最も高い数値を示している項目が16（歯の生え替わりでは上の歯は緑の下に、下の歯は屋根に）である。幼稚園に通園する時期はどの子ども乳歯から永久歯に生え替わる時期であり、身近な体の変化として実感できるからであろう。二つには、

a群2と4の食事場面に関するものが割合として高い。幼児期の子どもは食べる時に手がかかる年齢であり、俗信を織り交ぜて言い聞かせている様子が想像できる。三つには、a群8は子どもが遊びの中で年長者の吹く口笛に興味を示し、自分も吹けるようになったことがうれしく所構わず口笛を吹けるようになったことを誇らしく見せているのだろう。親としてそのような我が子の姿や気持ちを理解しつつも、決して好ましい成長の姿とは見ていない心理がうかがえる。四つには、c群29と30は親として我が子の健康に細心の注意を払っていることがうかがえるが、子ども自身にも自覚を促す意味でこれらの俗信を話の中に取り入れているものと考えられる。

(2) 「保護者が子どもの頃に聞いた経験と子どもに話した経験」について

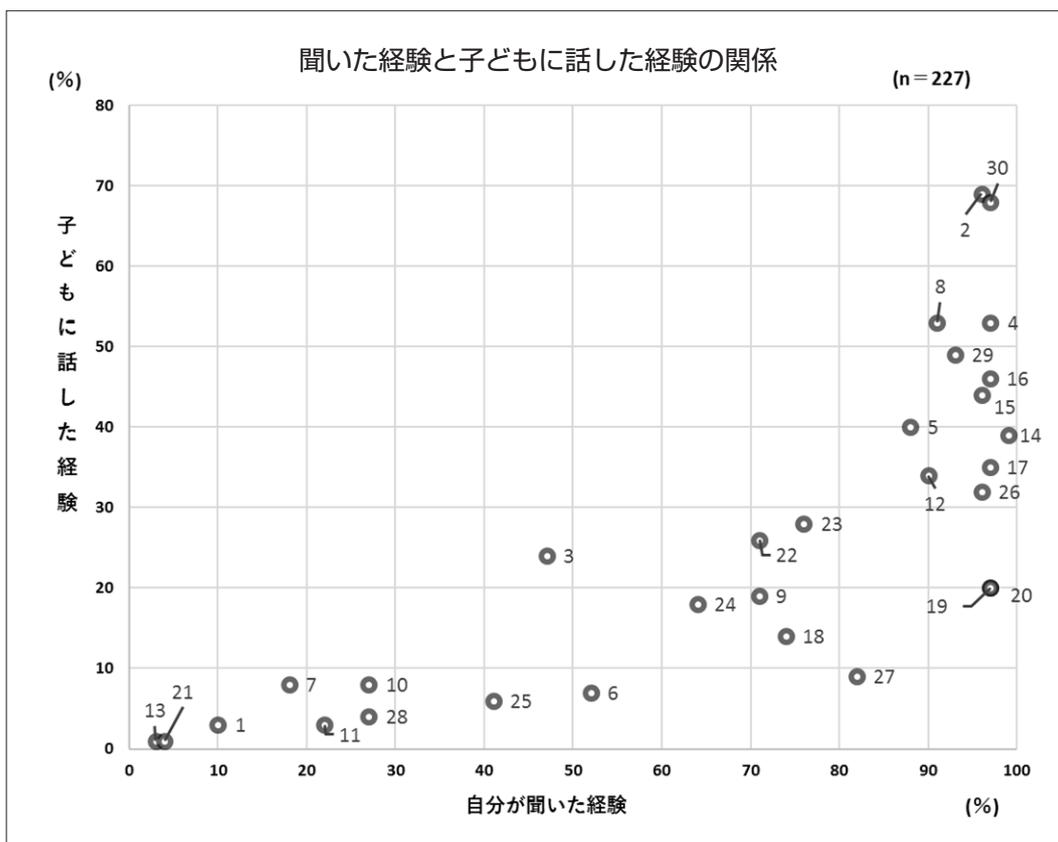


図2 保護者が子どもの頃に聞いた経験と子どもに話した経験

図1では保護者の子どもの頃に聞いた経験・子どもに話した経験について、それぞれに焦点を当てたものであるが、図2は、自分が聞いた経験と我が子に話した経験との関係を見るために散布図に表したものである。俗信30項目のドットの散布状況から、次の三つのグループに分けて分析する。

一つ目のグループは、図中の右上に位置するドット（2、30、4、8）である。すなわち聞いた経験が90%以上かつ話した経験も50%以上のものであり、保護者自身が子どもの頃に聞いた経験と我が子にも話している経験が双方共に高いものである。具体的には、a群2（ご飯に箸を立ててはいけない）とc群30（雷が鳴ったらへそを隠せ）が突出している。次いでa群4（食べてすぐ横になると牛になる）、8（夜

に口笛を吹くと蛇が出る)が続いている。また数値的にはわずかに条件を満たしていないが、c群29(へそのゴマを取るとお腹が痛くなる)もこのグループに含めてよいかもしれない。これらの俗信は、生活上のしつけや健康の意味で我が子に対してよく使われており、保護者自身も子どもの頃に親から言い聞かされ、なぜだろうといった疑問や牛や雷など特徴的な言葉が使われていることから、子ども心に強い印象として記憶に残り大人になってからも記憶に残っていることが背景にあると考えられる。

二つ目のグループは、右下に位置するドット(14、15、16、17、19、20、26)である。すなわち聞いた経験が90%以上かつ話した経験50%未満のものであり、聞いた経験があってもあまり我が子に話していないものである。具体的には、b群14(茶柱が立つとよいことがある)、15(靴を飛ばして裏返ったら雨になる)、16(歯の生え替わりでは上の歯は縁の下に、下の歯は屋根に)、17(人に噂されるとクシャミがでる)、19(北枕で寝てはいけない)、20(手の平に「人」を3回書いて飲むと落ち着く)、c群26(ワカメやコンブを食べると髪の毛が増える)である。特に15は子どもの頃の遊びの一つとして、16は自分が子どもの頃に歯が抜けた時の記憶を思い出しながら、半数近くの親が我が子に話していることがわかる。

三つ目のグループは、左下に位置するドット(1、13、21、7、10、11、28)である。すなわち聞いた経験が30%未満かつ話した経験10%未満のものであり、聞いた経験・話した経験の数値が共に極めて低いものである。具体的には、a群1(茶碗を叩くと餓鬼が集まる)、b群13(南天の箸で食べると病気をしない)、21(蛇を指差すと指が腐る)であり、それらに次いでa群7(枕を踏むと頭痛もちになる)、10(寝ている人をまたぐと、またがれた人は出世できない)、11(貧乏ゆすりをするとうちで出世できない)、c群28(スイカの種を飲み込むと盲腸になる)が続いている。保護者自身も聞いた経験が記憶としてあまり残っておらず、当然我が子にも話していない俗信であると考えられる。

図2のドットの散布状況から、俗信が保護者世代にどのように扱われているのかについて、推論の域を出ないが、筆者の考えをまとめてみる。

今回取り上げた俗信の中には、今日では科学的な意味が後付けされたものもみられる。例えば、雷が鳴ることは夕立を伴い気温が急激に低下することから、お腹を冷やさないためにへそを隠せと言って健康に注意させるなど、本来の由来にまつわる意味とは違ったしつけの方便として、あるいは健康な生活を送る上での知恵として説明できるとする先学の意見も見聞きする。また、冬至にかぼちゃを食べる慣わしは、冬の野菜不足やビタミンを補給する意味で食生活上合理的な考えであるとされている。

今回の調査対象となった保護者の多くは、これらの俗信について昔から言い伝えられてきた由来に基づき、きちんと我が子に話しているケースは少ないのではないだろうか。場合によっては子どもを少し脅かしてしつけようという意図で刺激的な言葉として会話の中で使っていたり、面白い言い伝えの話として使っていたりする場合もあるのではないかと推察できる。保護者自身が聞かされ記憶に残っている俗信のうち、例えばしつけの一環として一定の効果があると親が判断すれば、親に言われてきたことをそのまま使うか自分流に解釈して使うかなどして、結果的に俗信を使った子育てをくり返している姿がうかがえる。同時に保護者の記憶に残っていない俗信は、その家庭や親子の会話の中で話題に上ることなく消えていくことになるのだろう。

今回のアンケート調査に協力してくれた227名の保護者の回答結果をみれば、断定的には言えないが、

時代が推移していく中で一定の子育て上の効果や価値があると認められた俗信は、たとえ迷信としての意味合いが強くても今後も言い伝えられ残っていくものと考えられる。

(3) 「子どもの頃に聞いた経験についての保護者と学生の割合比較」について

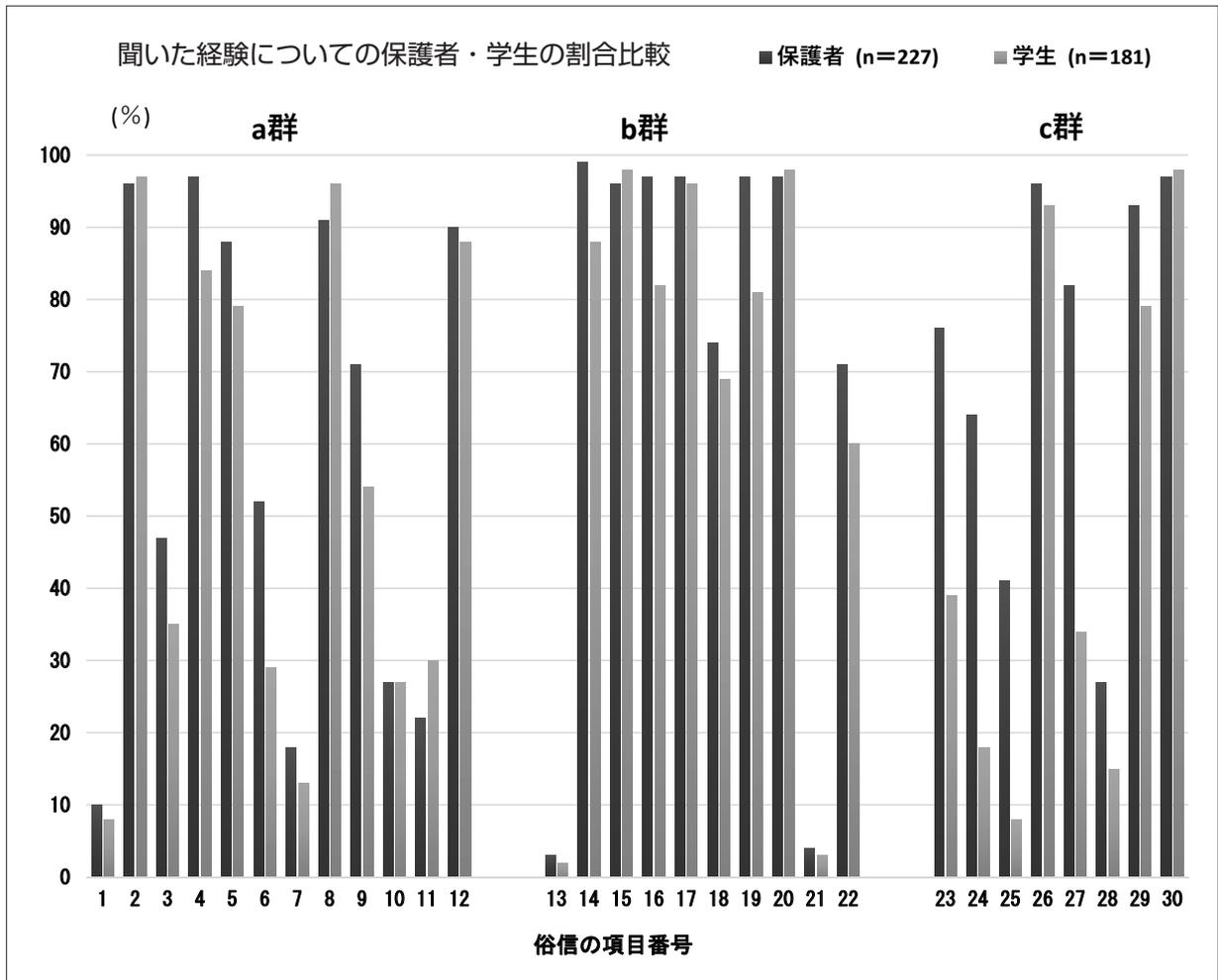


図3 子どもの頃に聞いた経験についての保護者と学生の割合比較

図3からいえることは、保護者世代と学生世代は年齢的に10歳前後の差があると仮定しても、グラフの特徴としてほとんど同傾向にある。また、保護者と学生双方の80%以上が聞いた経験があると回答した俗信は、確実に言い伝えとしてくり返されている。こうした傾向から、俗信は科学的に根拠を示して説明できないものが数多くあるにもかかわらず、会話の中で使われている状況がうかがえる。

子育て関連の俗信は、時代や社会の世相に大きく影響を受ける流行語的な言葉ではないが、筆者には「されど俗信は根強い」といった印象をもたざるを得ない。ただ、子育て関連に限らずもっと数多くの俗信を取り上げて調査すれば、また違った傾向がみられるのではないかとも思われる。その点も踏まえて、本稿での分析はあくまでも子育て関連の俗信30項目に限定していえることとして述べていく。

図3から、聞いた経験の数値の高低にかかわらず、あえて保護者と学生の世代間の差が大きく出た結

果となったものを抽出してみる。

具体的には、a群3（ご飯をこぼすと目がつぶれる）、6（ミミズにおしっこをかけるとオチンチンが腫れる）、9（子どもが火遊びをするとおねしょする）、b群14（茶柱が立つとよいことがある）、19（北枕で寝てはいけない）、c群23（冬至にかぼちゃを食べると風邪をひかない）、24（端午の節句に菖蒲湯に入ると病気にかからない）、25（てんぷらとスイカを一緒に食べてはいけない）、27（酢を飲むと体が柔らかくなる）、28（スイカの種を飲み込むと盲腸になる）である。

その理由について考えられることは、14「茶柱が立つ」や19「北枕で寝る」の俗信は、食習慣や住環境など生活様式の変化、宗教観や科学的根拠に対する価値観なども、保護者世代と学生世代の数値の差が大きかった要因として挙げられるのではないだろうか。とりわけc群に属する健康に関する項目の中に高い数値の保護者と低い数値の学生との差が大きかったことも特徴の一つである。特に学生と比較して保護者の意識が高い結果となったc群の俗信の項目については、家庭での食生活など生活全体の中心的役割を果たしている母親の意識が反映されているものと考えられる。

母親の意識の具体的なものとしては、家族が健康に過ごし幸せな家庭を築こうとする強い気持ちをもっていること、家庭生活の中に冬至や端午の節句などの年中行事が節目の日として意識され食生活に取り入れられていること、昔から言われてきたり行われてきたりしたものを慣わしとして肯定的に受容していることなどが考えられ、その結果として保護者の数値を押し上げていることにつながっている。すなわち、単に学生世代と保護者世代といった年齢的な理由では説明しきれないものであるといえる。

### 3. 2 学生アンケートの調査結果について

#### (4) 「学生の保育の場で話す可能性」について

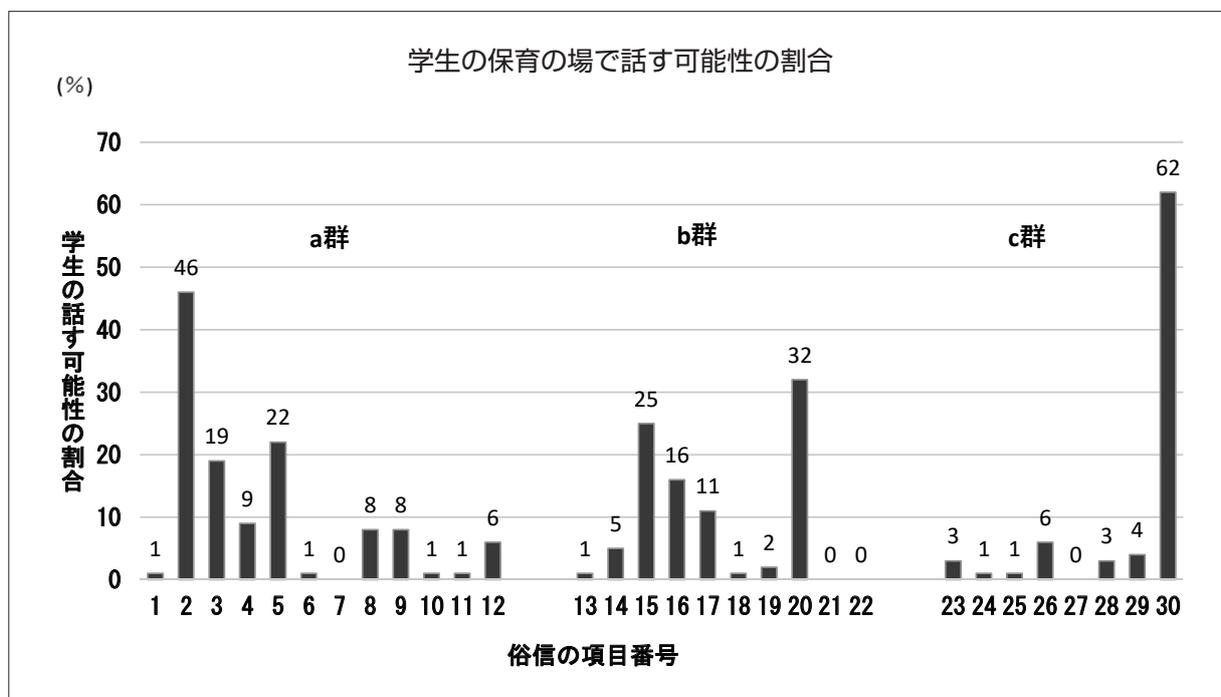


図4 学生の保育の場で話す可能性

図3では保護者と学生双方の俗信を聞いた経験を比較したものであるが、図4では学生が子どもの頃に聞いた経験に基づき、それらの俗信に対して理解している範囲で、保育職に就いた際に使う可能性について質問した回答結果を表している。

図4から特徴的にいえることは、a群2（ご飯に箸を立ててはいけない）が46%、c群30（雷が鳴ったらへそを隠せ）が62%と、際だって高い数値を示している。次いで20～30%前後の数値を示しているものでは、a群3（ご飯をこぼすと目がつぶれる）、5（嘘をつくとき閻魔様に舌を抜かれる）、b群15（靴を飛ばして裏返ったら雨になる）、20（手のひらに「人」を3回書いて飲むと落ち着く）が挙げられる。

学生アンケートでは自由記述方式で選択したこれらの俗信について理由を書いてもらっているので、それらの中から多くの学生が理由として書いている例を次に紹介する。

#### 2（ご飯に箸を立ててはいけない）について

- ・お昼のご飯を食べている時、ご飯を食べながらお話としてできるかなと思いました。
- ・自分も信じているし、行儀が悪いことなのでやめさせるのにこの迷信は有効だと思います。
- ・子どもの頃から両親に言われていたし、お弁当の時間にそうすると友達同士でも「立てたらあかんで！」と言いついていたから、保育の場でもお昼の時間に箸を立てている子を見つけると言ってしまうそうである。
- ・死んだ人へのご飯という意味があるため、立ててはいけないことを教えるために言うかもしれない。

#### 3（ご飯をこぼすと目がつぶれる）について

- ・マナーとして行儀が悪いと思うので、給食や弁当の時間にこぼした子がいる場面で迷信を使って注意すると思う。
- ・ご飯にお箸を立ててはいけない、同じ物を二人で箸でつかんではいけないなども、一緒に親から教わりました。
- ・ご飯粒を残さずにきれいに食べてほしいから、残した子に言いそう。
- ・お米だけでなく何かを作ってくれている人への感謝の気持ちを知らすべきだと思うから。

#### 5（嘘をつくとき閻魔様に舌を抜かれる）について

- ・小さい頃から嘘をつく習慣がついてしまったらダメなので、子どもが嘘をついてしまった時に話すかもしれません。
- ・嘘をついてはいけないと教える際に説得力がありそうだし、この迷信は使いやすいから。
- ・子どもが嘘をついた時、こういうことがあるから嘘をついたらいけないと迷信を使って教えると思う。
- ・嘘を言うと自分にもよくないことがあると思わせるため、わかってもらうために話すかもしれない。

#### 15（靴を飛ばして裏返ったら雨になる）について

- ・昔自分もブランコに乗りながら靴飛ばしをしていたから、遊びのネタとして子どもに伝えるかもしれないです。
- ・ゲーム感覚で遊べてよいかなと思うし、いたずらで靴を飛ばした子に注意する時に話す。
- ・「あした天気になーれ」と言いついて、靴を飛ばした遊びを小さい時にしたし、それをするので楽しくなると思うから、その時にこの迷信が出そう。

・今の子どもも靴を飛ばして遊んだりすることがあると思うので、より楽しんで遊んでほしいから言うと思います。

#### 20（手のひらに「人」を3回書いて飲むと落ち着く）について

- ・実際に自分が子どもの頃に言われていたので、自分が言って子どもに信じさせてしまいそうです。
- ・子どもが緊張している時、「おまじない」と言って話すかもしれないと思った。
- ・迷信だとわかっているけれど、子どもたちに言ってしまうかもしれないと思いました。
- ・自分も緊張した時にしてしまうので、運動会や発表会の前などに子どもを落ち着かせる手段として言うかもしれない。

#### 30（雷が鳴ったらへそを隠せ）について

- ・実習の時に雷と大雨が降った時がありました。子どもたちに「おへそを隠さないと食べられちゃうぞ」と言って、へそを隠すように言ったから。
- ・鬼や雷の絵本の中に雷が鳴ったらおへそを隠すという描写があるため、なおさら言ってしまうと思います。また、手遊び「かみなりドン」をする時にも話すかもしれないと思います。
- ・お腹を冷やさないように迷信を使って言ってしまうと思います。
- ・雷を怖がっている子に「おへそを隠したら大丈夫、怖くないよ」と、安心させるために話すかもしれない。

学生が書いた理由には、自分の小さい頃の経験だけでなく、実習等で子どもたちと接した体験も反映されている。保護者へのアンケートを回収した際、一つの幼稚園では先生たちも別に回答してくれた。回答の数値的な傾向は保護者とほぼ同じであったが、1名の先生が学級の子どもたちに話したエピソードを書いてくれたので引用して紹介する。

「歯が生え替わった際、自分が大きくなったことを喜び、家庭で歯を屋根の上に投げたことを話してくれた園児がいたため、クラスの子どもたちの前で話しました。」

乳歯が抜けることは幼児期の子どもにとってごく自然な出来事であるが、こうして家庭で親から迷信として話を聞いて歯を屋根に投げた体験を嬉しそうに先生に話している姿や周りで聞いている学級の子どもたちの様子を想像すると、学級全体で成長の喜びを共有するとともに、乳歯が抜けることへの不安を払拭させているように思う。子どもたちにとって乳歯が抜けることにまつわる迷信との出会いは、たとえ話題として偶然であっても、子どもの成長を家庭と幼稚園が共に喜び合える好循環となっている一例といえる。

(5) 「保護者の話した経験と学生の保育の場で話す可能性についての比較」について

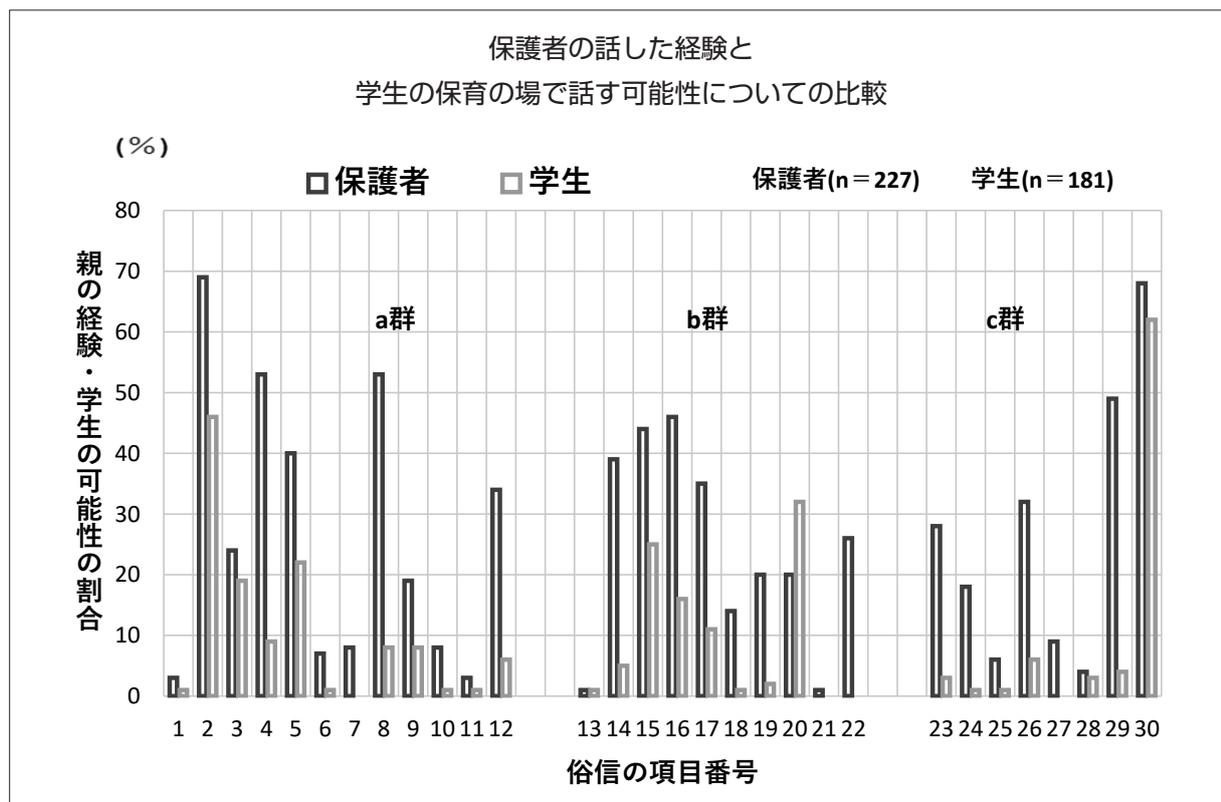


図5 保護者の話した経験と学生の保育の場で話す可能性についての比較

保護者への質問とは趣旨が少し異なるため単純な数値比較はできないが、図5からいえる特徴的なことは、ほとんどの俗信について我が子の生活全体に関わっている保護者の方が学生よりも数値が高い。学生の数値では、c群30（雷が鳴ったらへそを隠せ）を除いてすべて50%未満である。c群30だけが保護者、学生共に60%以上の高い数値を示している。一方でb群20（手のひらに「人」を3回書いて飲むと落ち着く）だけは学生の方が保護者より数値が高い。これは、保護者に比べて学生は授業等において人前で表現する機会の多さが影響しているものと考えられる。また、保護者が我が子にあまり話していない俗信は、学生も選択していないため共に10%未満の低い数値を示している。具体的には、a群1（茶碗を叩くと餓鬼が集まる）、6（ミミズにおしっこをかけるとオチンチンが腫れる）、7（枕を踏むと頭痛もちになる）、10（寝ている人をまたぐと、またがれた人は出世できない）、11（貧乏ゆすりをするとう世できない）、b群13（南天の箸で食べると病気をしない）、21（蛇を指差すと指が腐る）、c群25（てんぷらとスイカを一緒に食べてはいけない）、27（酔を飲むと体が柔らかくなる）、28（スイカの種を飲み込むと盲腸になる）が挙げられる。

その理由として考えられることは、自分にとって聞いたことがない俗信であること以外に、一つに「〇〇してはいけません」と注意するだけで済む場合にわざわざ認知度の低い俗信をもち出す必要性が低いこと、二つに科学的根拠のない俗信で使う価値がないと判断していること、三つに俗信の内容が子どもの日常生活にあまり関係していないこと、四つに俗信の由来について子どもが理解できるように丁

寧に説明しなければならぬ困難さと面倒さがあること、五つに子どもからの「どうして？」という質問に答えられるだけの俗信についての知識をもち合わせていないことなどが挙げられる。

毎日我が子と生活を共にしている保護者はどのような場面で俗信を話しているのかについて、前述のアンケート調査では多くのエピソードが記述されていた。それらの中から場面や子どもたちの反応がうかがい知れ、ほほえましい親子関係や家庭生活が感じられるものを次に紹介する。

- ・うそをつくときエンマ様に舌を抜かれる話を子どもにしていて、うそをつくとき少しずつ短くなるとアレンジすると、知ってうそをついて鏡を見に行っていました。1回話しただけですぐに覚えて、後日子どもは「うそをついたらエンマ様に…」と、妹に話していました。
- ・子どもがお風呂後や着替えの時に、なかなかズボンをはかないので「雷さんにおへそを取られるよ！」と言うと、すぐにズボンをはきます。それ以来、雷が鳴るとおへそを必死で隠しています。
- ・雷とおへその話をしてから、雷が鳴れば急いで隠すようになりました。あんなに一生懸命やっていたのに、成長とともにしなくなったので、少々淋しいですね。
- ・長男は年長になった今でも、雷が鳴るとおへそに手を当てこっそり守っています。鳴り終わった後に、私が「おへそある？」と聞くと、そーっとシャツをめくり確認して「大丈夫！」と教えてくれます。
- ・夜におもちゃの笛を吹いていると、つい「蛇が来るよ！」と言ってしまいます。
- ・田舎のおじいちゃん、おばあちゃんの家へ帰省した時、一緒に畑について行き、おしっこをしたと言いだしたので、「端の方でしょう。ミミズにおしっこをかけると、オチンチンが腫れるよ」と教え、「ミミズさん、いませんように」と言いながら、用をたしました。次の日、子どもが「お母ちゃん、オチンチン腫れてない」と嬉しそうに報告してきました。
- ・6歳男子なのですが、じっと座ってご飯を食べるのが苦手で、お茶碗にお箸を立てたりこぼしたり、食べている最中にも寝転びに行ったりごそごそしたりするので、古くからの言い伝えを言って正してもらおうと試みています。ただダメと言うよりは、子どもも言うことを聞くように思います。
- ・酔物の物が嫌いなスポーツをしている娘に、「酔物の物を食べると体が柔らかくなるから上手になるよ」と言って食べさせました。本人も信じているようで、がんばって鼻をつまんで食べていました。
- ・お天気占いのようなニュアンスで靴飛ばしの話をしたら、靴を飛ばして何が出るかの方が面白くなってしまい、お友達と何度も何度もくり返し、靴下も靴もどろんこになってしまったことがあります。
- ・ワカメやコンブが大好きな娘。特にコンブはおやつに持ち歩くほど、大好きです。そんな娘は髪の毛の量がとても多くフサフサ。「コンブを食べると髪の毛が多くなるんだよ。本当だね。」と話すと、とてもうれしそう。義父に「じっちゃん、私のコンブあげるから、食べて髪の毛フサフサにしてね」と言っているのを聞いた時は、ハラハラしました。
- ・子どもの反応はどれを言っても、「え？なんで？」と不思議そうでした。
- ・新しい靴を買ったその日に我が子は履きたがりますが、私自身が子どもの頃から「新品の靴は午前中に下ろさないと足にケガをする」と教わってきました。たまたまですが、午後を下ろした靴を履いてケガをした覚えがあるので、今でもその教えを子どもに伝えております。我が子も靴を下ろせる翌日を楽しみに早く就寝することも増えたので、今後もそのように伝えていこうと思います。面白い言い伝えがたくさんあり、楽しかったです。

多くのエピソードから、保護者として我が子がしている姿を見て、俗信と認識しつつ上手に使うって話をしている様子がうかがえる。時には意識的にアレンジをして使ったり、子どもが覚えてたの俗信を親の想定外の場面で無邪気に使いハラハラさせられたりなど、まさしく俗信を介した子育てのドラマを見ているようでもある。それだけ俗信のいくつかは毎日の生活の中に入り込んでいるともいえる。

一方、学生に対する質問では保育の場で俗信を使う可能性について尋ねていることから、保育方法としてとらえ保育場面を想定して目的的に使う視点から選択している。そのため図5からも読み取れるように、学生が選択した項目2（ご飯に箸を立ててはいけない）、5（嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる）、15（靴を飛ばして裏返ったら雨になる）、20（手の平に「人」を3回書いて飲むと落ち着く）、30（雷が鳴ったらへそを隠せ）は20%以上であり、他の俗信に比べて高くなっている。

筆者は、保護者が子育ての中で話す場面と学生が保育方法として話す可能性の高い場面とを比較すれば、俗信の扱い方について特徴的な違いが明らかになるのではないかと当初想定し、研究仮説でも調査結果から何らかの保育の場での扱い方を考えていくきっかけになるのではないかと考えた。しかし、家庭での親子関係とは異なり、保育者と子どもという関係の中で保育場面での俗信の扱い方については、大きな効果があるとは認めにくく保育的価値を見いだすことはできないという結論に至った。

## 4. 考察

### 4. 1 文献調査からの俗信と迷信の定義について

民俗学の観点からは、前掲の『民俗学辞典』の記述から定義に関する関係部分を抜粋して引用する。

俗信の項では、「俗信のうちには、現在の科学知識から見て不合理なものが多いが、それらの中には社会にはなはだしい実害をおよぼすものがあり、これだけをわれわれは迷信と呼んでいる。」

迷信の項では、「俗信のうちで特に社会生活の上に甚だしい実害を及ぼしているのを呼ぶ。」とされ、「その定義は明確にされていない。」と、それらの区分や整理に対する一定の認識が統一できていないとする見解が述べられている。また、民俗学では「俗信」という表記に比べて「迷信」という表記はあまり用いられておらず、研究対象という観点からは「俗信」というとらえ方をしている。

辞書的な観点からは、前掲の『学研国語大辞典』の記述を引用して紹介する。

俗信の項では、「[うらない・まじないなど] 世間で行われている（迷信的な）信仰。また、幽霊・妖怪・つき物などの存在を信じること、および、それらに対してさまざまな宗教的技術を用いること。」

迷信の項では、「世の中に害を及ぼすような誤った信仰。ある時代の人々の理性からみて、非合理的で正しくないとされる信仰。」

俗信や迷信は、その由来等の意味付けに複合的な要素が組み合わさっていることが多く、広く認知された定義に基づいて分類することは困難な作業になるのではないだろうか。また、本稿の研究目的である子育ての観点からみた俗信の扱われ方については、筆者が前述したとおり俗信と迷信の厳密な区分の必要性は低いと考えている。

俗信であれ迷信であれ、今日でも言い伝えられているものが数多く存在していることが調査結果から

読み取れたが、それらの由来や本来の意味が曖昧であったり自分の価値観に照らして取捨選択したり自分流に解釈して使ったりしている現状がみられる。見方を変えれば、俗信や迷信という言葉自体は両方存在するが、伝承されてきた個々の俗信や迷信の内容こそが重要であり、人から人へと世代を超えて伝承していく性格を踏まえれば、俗信と迷信を明確に区分して言い伝えられなければならないという価値も低いと考えられる。

伝承されてきた俗信の数は、時代とともに明らかに減少傾向にあり、地域によって少しずつ因果を説く内容や表現にも違いがみられる。さらには科学的な根拠が後付されることによって、因果関係が合理的であり妥当であると再認識されるものもある。しかし、現代社会においても言い伝えられている俗信の多くは、科学的根拠を示して説明することができないものが多く、単に昔から言い伝えられている慣わしであると認識されている。こうした俗信の扱われ方に対する功罪はともかくとして、日常の生活場面からすぐには消滅しないものと推察される。

なお、筆者のもう一つの関心事であった子育てという観点での俗信についての調査報告又は論及した文献を検索したが、見つけることはできなかった。

## 4. 2 アンケート調査結果からみた俗信の扱われ方について

### (1) 研究仮説①について

「保護者世代が自分の親世代から俗信を聞かされて記憶として残っていれば、我が子の子育てに使っている場合が多いのではないか。」

保護者227名が俗信30項目全てに○と回答した数6,810を分母として計算すると、子育てに関する30項目全体での聞いた経験数の合計は4,587となり、割合では67.4%となる。また子どもに話した経験数の合計は1,770となり、割合は26.0%でしかない。今回の調査の限りにおいては子育てに関連する俗信をすべて子どもたちに話しているわけではない。保護者が生活場面で話す意図を、しつけのために、まじないとして、健康や安全に気を付けさせるためになどと認識しながら、発達年齢に即して適切に取捨選択して話していると考えられる。

ある保護者の感想に「あんなに一生懸命やっていたのに、成長とともにしなくなったので、少々淋しいですね。」とあったように、時には俗信を効果的に使いながら毎日奮闘してきた子育ても、少し美化した形で記憶され我が子の成長とともに保護者の心に刻まれていくのではないだろうか。

### (2) 研究仮説②について

「アンケート調査の結果を通して、子育ての中で俗信がどのように扱われているかについて、保護者の意識の傾向が明らかになるのではないか。」

保護者へのアンケート調査の中で、自由記述で俗信を子どもに話した場面のエピソード等を記述してほしいと依頼していたが、227名のうち29.5%に当たる67名の方が回答を寄せてくれた。中には迷信として解釈して自分の経験談やとらえ方、我が子へ話をする際の考え方なども記述されていた。また、アンケートへの回答を楽しめたという感想や、筆者も読みながらほほえましく感じるような子育ての記述もみられた。記述されていた中から、保護者がどのように俗信を子育ての中でとらえているのか、エピソード

ソードを引用しながらその一端を紹介する。

- ・全てが迷信だとは私は思っていないので、科学的根拠のあるものや一理あるものは理由を説明して子どもに伝えています。また、ワカメやコンブを食べると黒髪になると言われ、頑張って食べた記憶がよみがえりました。結果、見事な茶髪で現在は白髪がたくさん。全く関係なかったです。おばあちゃん、ひどいわ。
- ・アンケートをしてみて、自分が子どものころに言われていたことが多いことに気付きました。子どもには数個言っているけれど、どれも子どものためになることだと思って言っていたんだなあと感じます。子どものためになるようなものだと、もっとたくさんあるのかな？ あれば知っておきたいなと思いますが。
- ・俗信や迷信は、自分が幼い頃は勝手な〈オキテ〉。母になって子どもと向き合う人間形成などのためには都合が良い〈りくつ〉(笑)
- ・「うそついたらペロを抜かれるよ！」は、姉弟げんかで人のせいにした時に言いました。けど、姉は6歳。「そんなことされへんわ！」と、世の中を理解しているので通じません。(笑)なので、ちゃんと理屈の通った言い方でしつけないといけない年齢になりました。迷信だと親はわかっていますが、しつけの場面で役立つ迷信を使っている次第です。
- ・子どもの頃信じていた記憶が大人になり、迷信でバカらしいとわかった。だから子どもには話していないことが多い。でも、サンタクロースと同じで、信じている姿はかわいいし、常識やしつけにつながることも中にはあると思う。
- ・雷が鳴ったらへそを隠せというのを子どもが知ってから、雷が鳴るとすぐにおへそを隠します。子どもの素直さが見えて、ほほえましく見守っています。私自身もいまだに信じていることもありするので、聞いたことのなかった迷信も知れて、このアンケートに答えられてなんだか楽しかったです。

「迷信は所詮迷信である」と保護者は正しく受け止めており、その上で子育てでは上手に使うことで子どもに接している様子が見える。今回のアンケート調査を通して、俗信と保護者の子育てに対する意識の関係を単に数値的な評価のみで論じるのではなく、アンケートに書かれたエピソードにこそ、そのヒントや解答があるように思われる。子をもつ親の立場になっている世代では、俗信を「オキテ」と「りくつ」と受け止め表現された保護者がいたように、親として子どもにしてほしくない行為等をやめさせたい時、俗信を「昔から言われている」という間接的なニュアンスをもたせることによって、子どもに受け入れさせようとしているのだろう。しかもその効果は一定の年齢までという期限付きであることも承知の上のことと推察できる。保護者から報告されたエピソードからは、幼児期における子どもと俗信との出会いは、親子関係の潤滑油として機能している側面が認められる。また子どもにしつけとして使う俗信の効用についても、決して過大評価をしていない賢い子育てをしている親の姿もうかがえる。

アンケートの回答から使う割合の高い俗信をみると、保護者の方々は我が子との付き合い方とともに俗信との適切な付き合い方も十分に会得していると考えられる。保護者の俗信との付き合い方については、子ども自身が成長していく中で特に迷信として受け止めている場合は「迷信はあくまで迷信」とい

う認識がもてていること、科学的根拠に乏しく不合理で不適切な迷信は使わないという考え方ができていることを前提にすれば、親子の会話に登場することを全否定する必要はないと考える。ただし、日常生活を送る上で判断や行動に制約又はとまどいを覚えるおそれのある迷信については、親としての立場だけでなく良識ある大人として明確に否定して扱っていく判断力をもっていることが大切である。

### (3) 研究仮説③について

「保育職を目指している学生の俗信に対する聞いた経験や意識の実態を把握することにより、その傾向や保護者世代との違いが明らかになり、保育の場での扱い方を考えていくきっかけになるのではないか。」

学生181名×俗信30項目を分母として計算すると、聞いた経験のある俗信の合計数は3,078となり、割合では56.7%になる。また話した経験のある俗信の合計数は1,770となり、割合では32.6%にとどまる。学生の場合は主として友達との間で話した経験として認識されているものが多いと考えられる。また、俗信は保育者が子どもたちに聞かせようと意図的に計画して話すものではなく、会話の中にきわめて偶然に登場するものである。

こうした点を踏まえ、3.2の「学生アンケートの調査結果について」の項で、図5「保護者の話した経験と学生の保育の場で話す可能性についての比較」をもとに述べたように、比較した結果からみてあまり大きな意味を見いだせないことがわかった。俗信を子どもたちに使うために意図的な保育場面を設定することは通常の保育では考えられない。当然幼児教育としての目標にも内容にも関係するものではない。そのため学生はアンケートへの回答でも「強いて俗信を使うことがあるとすれば」といった程度で項目を選択したものと推察される。

幼児教育のプロを目指す学生の立場からみて、これまで自分があまり意識することなく使っていた俗信を、子どもたちの生活習慣や心理面にどのように関与し影響を与えているのかの観点から、改めて問い直してみることも意味のあることではないだろうか。

## 5. まとめ

俗信は民俗文化として位置付けることができる一方、決して家庭での子育てや幼児教育の本質や基本に関わることがらではない。それでもいくつかの俗信が世代を超えて家庭の中で言い伝えられ、親子の会話の中でも決して消滅していないことも事実である。また、俗信が科学的見地に基づく育児書にあれこれと書き表されることもない。

本稿では、家庭における子育ての中での俗信の扱われ方について、その実態を明らかにし望ましいありようを考えてきたが、最後に、俗信を通した家庭と幼稚園との連携という視点から考えてみたい。幼稚園で先生がもし俗信にまつわる話を子どもたちが学級で話しているのを聞いた時、どのように受け止めて対応しているのか、また逆に家庭ではどのように俗信を子育てに使っているのかなど、子育て支援の観点から学級懇談会等の一つのテーマになり得るのではないだろうか。

筆者の俗信との向き合い方の考えとしては、幼児期は道徳性が芽生える段階であることを踏まえ、単なるしつけの方便や言い聞かせるための大人の知恵として安易に使うことは避けたい。そのため例えば、①数多くある俗信の中から選択して子育てに使う可能性の視点から、②子どもに話すことの適切性や妥当性の視点から、③聞いた子どもへの心理的影響の視点から、④子育て上の効果や悪影響の視点からなど、様々な角度から俗信の扱い方を考えていくことが大切であると考え。

## 6. 謝辞

本研究に当たり、平成29年11月に保護者へのアンケート調査に御理解と御協力をいただきました大和郡山市立郡山南幼稚園長坂本佳代子氏、郡山北幼稚園長奥田光子氏、郡山西幼稚園長加奥満紀子氏をはじめ各学級担任の先生方には、保護者への直接的な依頼と回収でたいへんお世話になりました。また、幼稚園の保護者及び本学学生の皆様にもアンケートへの回答に御協力いただきましたことに改めて感謝申し上げます。

### 引用文献

- 1) 北山哲 (2007) なぜ夜に爪を切ってはいけないのか. P6-10. 角川SSC新書.
- 4) 柳田國男 (1972) 民俗学辞典. P329-330. P615. 財団法人民俗学研究所.
- 5) 金田一晴彦・池田弥三郎 (1990) 学研国語大辞典. P1124. P1918. 学習研究社.

### 参考文献

- 2) 鈴木棠三 (1982) 日本俗信辞典. 角川書店.
- 3) ジャパノートー日本の文化と伝統を伝えるブローグー 日本の迷信50+1 <http://idea1616.com/meishin/>

別表1 子育てに関わる俗信についての保護者アンケート集計結果

	俗 信 項 目 (少し表現が異なる場合も同趣旨であれば含む)	子どもの頃に聞いたことがあるものに○印	子どもに何かの機会に話したことがあるものに○印
1	茶碗を叩くと餓鬼が集まる	23	7
2	ご飯に箸を立ててはいけない	218	157
3	ご飯をこぼす(残す)と目がつぶれる	107	55
4	食べてすぐ横になると牛になる	221	120
5	嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる	199	90
6	ミミズにおしっこをかけるとオチンチンが腫れる	118	16
7	枕を踏むと頭痛もちになる	40	18
8	夜に口笛を吹くと蛇が出る	206	121
9	子どもが火遊びをするとおねしょする	161	42
10	寝ている人をまたぐと、またがれた人は出世できない	61	18
11	貧乏ゆすりをすると出世できない	50	7
12	家の敷居や畳のへりを踏んではいけない	205	77
13	南天の箸で食べると病気をしない	7	2
14	茶柱が立つとよいことがある	224	88
15	靴を飛ばして裏返ったら雨になる	219	140
16	歯の生え替わりでは上の歯は縁の下に、下の歯は屋根に	220	104
17	人に噂されるとクシャミがでる	220	79
18	夜に爪を切ると親の死に目に会えない	168	32
19	北枕で寝てはいけない	221	45
20	手のひらに「人」を3回書いて飲むと落ち着く	220	46
21	蛇を指差すと指が腐る	8	3
22	夜に新しい靴をおろしてはいけない	161	58
23	冬至にかぼちゃを食べると風邪をひかない	172	64
24	端午の節句に菖蒲湯に入ると病気にかからない	145	41
25	てんぷらとスイカを一緒に食べてはいけない	94	12
26	ワカメやコンブを食べると髪の毛が増える	219	72
27	酢を飲むと体が柔らかくなる	186	21
28	スイカの種を飲み込むと盲腸になる	62	7
29	へそのゴマを取るとお腹が痛くなる	212	111
30	雷が鳴ったらへそを隠せ	220	154

(単位:名)

実施期間 平成29年11月1日～11月25日  
 回答者数 227名(アンケート配付家庭数 289)  
 回答率 78.6%  
 アンケート回答者 大和郡山市立郡山南幼稚園、大和郡山市立郡山北幼稚園、大和郡山市立郡山西幼稚園の各保護者

別表2 子育てに関わる俗信についての学生アンケート集計結果

	俗 信 項 目 (少し表現が異なる場合も同趣旨であれば含む)	子どもの頃に聞いたことがあるものに○印	自分から誰かに話したことがあるものに○印
1	茶碗を叩くと餓鬼が集まる	14	3
2	ご飯に箸を立ててはいけない	176	112
3	ご飯をこぼす(残す)と目がつぶれる	64	33
4	食べてすぐ横になると牛になる	152	100
5	嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれる	143	58
6	ミミズにおしっこをかけるとオチンチンが腫れる	52	16
7	枕を踏むと頭痛もちになる	24	6
8	夜に口笛を吹くと蛇が出る	173	122
9	子どもが火遊びをするとおねしょする	97	18
10	寝ている人をまたぐと、またがれた人は出世できない	49	12
11	貧乏ゆすりをすると出世できない	55	12
12	家の敷居や畳のへりを踏んではいけない	159	83
13	南天の箸で食べると病気をしない	4	2
14	茶柱が立つとよいことがある	160	94
15	靴を飛ばして裏返ったら雨になる	177	135
16	歯の生え替わりでは上の歯は縁の下に、下の歯は屋根に	149	98
17	人に噂されるとクシャミがでる	174	154
18	夜に爪を切ると親の死に目に会えない	124	52
19	北枕で寝てはいけない	147	78
20	手のひらに「人」を3回書いて飲むと落ち着く	176	143
21	蛇を指差すと指が腐る	5	3
22	夜に新しい靴をおろしてはいけない	109	53
23	冬至にかぼちゃを食べると風邪をひかない	70	19
24	端午の節句に菖蒲湯に入ると病気にかからない	32	4
25	てんぷらとスイカを一緒に食べてはいけない	14	3
26	ワカメやコンブを食べると髪の毛が増える	169	112
27	酢を飲むと体が柔らかくなる	61	20
28	スイカの種を飲み込むと盲腸になる	28	8
29	へそのゴマを取るとお腹が痛くなる	143	75
30	雷が鳴ったらへそを隠せ	178	142

(単位:名)

実施期間 平成29年11月8日～11月25日  
 回答者数 181名  
 回答率 100% (アンケート実施日の出席学生)  
 アンケート回答者 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科 1回生～3回生